

二〇二五年度 学校推薦型選抜 適性検査Ⅱ

一 問題文を読んで次の問一～問九に答えなさい。解答はすべて楷書で所定の解答用紙に記入しなさい。

あるとき、鳥取の新聞社の人から大学に電話がかかってきた。用件は、「振り込め詐欺を防ぐための企画を進めているが、広く報道されているにもかかわらず、なぜ詐欺の被害は続くのか、動物行動学の視点から、教えてほしい」というものであった。

一瞬、私は、「その問いは、心理学の専門家へ向けられるべきだろう」と思った。でも少し考えて、「あくまで私の推察ですが」と前置きした上で、答えてみようと思った。それは以下のような理由があったからである。

私が入間の行動を説明しようとするときは、大抵、人間に適用された動物行動学の基本原理の中からいくつかを選び出し、それらを当該の行動に適用して発展させてみる。そしてうまくいきそうときには、その線に沿った考察を、より詳細に進めていく。^(a)「振り込め詐欺」の場合に私が選出しいた原理は以下のようなものだった。

我々が、外部から刺激を受け、五感を通して、情報として脳内に取り込むとき、大まかに二つの経路がある。

一つ目は、たとえば、眼から入った視覚情報が、視床という場所まで運ばれ、そこから大脳を経由せず、扁桃体^{へんとう}（感情・情動が発生する場所）へと送られる経路である。

二つ目は、眼から入った視覚情報が視床という場所まで運ばれ（ここまでは一つ目と同じ）、そこからいったん大脳へ送られ、そして扁桃体へ送られるという経路である。

視覚情報以外でも、聴覚でも嗅覚でも、基本的には同様な経路が存在する。

詳しい説明は省略するが、一つ目の経路は、その場の事態に素早く対処するために備わっている経路と考えればよい。情報の細部は分析されず大まかな特徴^xだけがざっと認知される。そして、もしその特徴が、自分にとって重大な意味を持つ情報であれば、すぐにその分析結果を扁桃体に送り、それに応じた感情を発生させ、行動を起こさせたり、行動の準備をとらせる。

それに対し、二つ目の経路は、入ってきた情報を、大脳で、それまでの記憶などとも照合し少し詳しく分析する。そしてその

分析結果を扁桃体に送り、場合によっては、扁桃体で緊急に生じている感情を、必要なし！と消失させたりする。
どちらもホモ・サピエンスの生存に重要な経路である。

A、川辺を歩いていて、マネキン人形が、顔の正面を上にして水際の本に引っかかっていたでしょう。一瞬、「人ではないか！」と感じて緊張し、その後、その表面の様子が詳しくわかり、「なんだマネキンか」と思い、緊張が低下する……。そんな体験のとき、前半は二つ目の経路が、後半は二つ目の経路が働いているのである。

ホモ・サピエンスをタンジ^(b)ョウさせた本来の環境は、野生の中で狩猟採集生活を営む環境であった。そこには、捕食^(c)ジユウや毒蛇、他部族の襲撃^(d)、滑落の可能性がある高所、急な水流など、さまざまな危険があったにちがいない。そういった環境下では、二つ目の経路⁽¹⁾は特に重要な反応系であっただろう。仮に、二つ目の経路による判断によって回避反応をとり、それがたままそのときは、早合点⁽²⁾の判断であったとしても、別な機会には、二つ目の経路による素早い回避反応が、二つ目の経路⁽³⁾の判断である場合もありうる。そういった素早い回避反応が命を救う場合もありうるだろう。そして、そういった、本来適応的な脳の特性が、振り込め詐欺を起こしやすくしていると考えられるのである。

記者の人から電話を受ける数週間前、あるテレビで放映されていた振り込め詐欺の被害にあった二人の女性（一方は初老、他方は中年）についての番組を、たまたま私は見ていた。番組では、被害者が「息子さんが大変な事件に遭遇しており、今すぐお金を支払えばなんとかなる」という内容の電話を受けた時点から、実際に振り込みを行なうまでの、被害者の心理が生々しく語られていた（被害者の女性はいずれも同じパターンの話で畏^わにはまっていた）。そして、（大変不謹慎で申し訳ないが、その証言の内容は、わたしにとっては大変興味深く）その証言を聞いた私の頭の中には、先に述べた二つの経路⁽⁴⁾が浮かんできた。

証言の内容は二人の女性で異なっていた。初老の女性は、とにかく「息子さんが大変な事件に遭遇しており、今すぐお金を支払えばなんとかなる」という内容の話を聞いて、胸が高鳴り、一も二もなくATMに走り、指示された先にお金を振り込んだと

いう。後で振り込め詐欺と分かったときの感想を次のように述べておられた。

「振り込め詐欺のことは聞いて知っていたが、電話で話を聞いたとき、気が動転して、振り込め詐欺だとはまったく思いつかなかった」

一方、中年の女性の場合、状況は少し違っていた。その女性は、振り込め詐欺のことも、その手口もよく知っており、電話で話を聞いたとき、ひよつとすると詐欺ではないかと思ったという。しかし、一方で、（もし電話の話が本当だったら）「すぐに振り込んでやらないと息子が大変なことになる」という感情が、自分でもどうすることもできないくらい氾濫し、振り込め詐欺かもしれないという気持ちとの間で葛藤状態が続いたという。最後は、「その苦しい状態からとにかく逃れたい。詐欺であつてもかわない、という思いで振り込んだ」、という話だった。

(2) 私は、後者の、中年の女性の証言が妙に心に残った。これが、いくら報道で、振り込め詐欺を知らせても、その被害が起こる理由の一つだ、と思ったのだ。そして、その心理状態は、脳を複雑にするという方向を選んだホモ・サピエンスという動物（ちなみに、ゾウは、鼻を長くするという方向を選んだ。特定の器官を特殊化させるという意味では、ホモ・サピエンスとゾウの場合とで本質的な差はない）の、脳の特性を見る思いがした。

〳二つの経路〴との関係で言えば、二人の女性の状態は、以下のように説明できる。

初老の女性の場合、「息子さんが大変な事件に遭遇しており、今すぐお金を支払えばなんとかなる」という〳概略〴が、大脳を経由しないで扁桃体に送られ、そこで生じた感情が、大脳を経由しての、記憶も含めた柔軟な情報の分析に勝り、その柔軟な分析を抑制ないし非柔軟にしたのである。

（先に例としてお話しした）川辺を歩いていて発見した「マネキン人形の顔」を、非大脳經由経路の扁桃体で、「人だ！ 何とかしなければ」と感じ、助けを呼びに行ったようなものである。

一方、中年の女性の場合では、大脳經由経路からは、扁桃体に、振り込め詐欺の可能性を伝えてくれているのだが、なにせ、

それより先に届いた非大脳経路からの、息子の危機を伝える『概略』が、扁桃体をあまりにも激しく動揺させるものだから、大脳経路からの情報が、それを制御できないのである。

前置きが長くなったが、そんな理由があつて、私は、振り込め詐欺について質問された記者の人に、答えてみようと思つたわけである。

私は、振り込め詐欺の被害に遭う人の心理を、脳内の構造と結びつけて推察して話した。記者の人は、納得されたような様子で私の話に対応し、やがて、⁽³⁾「では先生、先日、鳥取県で発生した次のような事例はどうなのでしょう？」と聞いてこられた（一部は、後で新聞記事を見て、付け加えている）。

⁽⁴⁾被害者は鳥取県在住の60代の女性だった。夫を外に送り出して一息ついたところで電話がかかった。受話器を取ると、「社会保険庁の森と申しますが……お宅さまが医療費を払いすぎていたのが分かりましたので、銀行に振り込んでお返しいたします」。女性性は「えっ、お金が返ってくるんですか」と喜んだという。女性の夫は、5年ほど前から病気の治療のため通院し、毎年医療費の^(e)キャンプ金が銀行口座に振り込まれていたが、前の年が例年より少なかったのを思い出し、「**B** 少なかったのか。これで例年通りの額になる」と勝手に納得してしまつたという。その後、「今日中に手続きが必要だ」と犯人に言われるまま、通帳、キャッシュカード、携帯電話を持つて銀行のATMに行った。そこで、ATMの操作をしたことがほとんどなかった女性は、犯人の指示にしたがつてカードや通帳を器械に挿入し、ボタンを押していった。結局、その犯罪は、最後の手続きのボタンが押される直前に、銀行の行員の機転で防がれた。女性は、「振り込め詐欺はテレビで知っていたが、まさか自分の家にかかつてくるとは。犯人が許せない」と語っている。

話を聞いて、私はすぐ、田舎の両親の顔が目に見えた。まったくひどい話だと思つた。

同時に、（記者に対しては）「そうきたか」と思つた。今度は、「振り込まないと大変なことになる」という鞭^{むち}ではなく、「こちら

が振り込んでもらえてお金が手に入る」という餡^{あん}である。私は一瞬考えた。この場合、動物行動学的な視点^{しとん}というノルマをクリアーした上での分析とは何だろう。私なりに納得できる答えはすぐ見つかった。二つの経路^{けいじょ}理論がそのまま使える。C
こういうことだ。

先までの説明では、非大脳経路を、大きな不安を喚起する情報の^し概略^{がいりやく}が流れたのであるが、今度は、大きな喜びを喚起する情報の^し概略^{がいりやく}が流れたのである。その結果扁桃体に生じた激しい感情が、大脳経路回路での詳しい情報分析を抑制し、喜ばしい結果に合わせるような無批判な分析（というより、後づけ）をさせてしまったのである。思考は停止している。

こんな状態のときは、どんな要素も、その結果を補強する情報にしかかなり得ない。いわゆる、「世界は、自分が思ったように存在する」、のである。

（小林朋道『ヒトはなぜ拍手をするのか 動物行動学から見た人間』による。出題の都合上、一部改変した箇所がある）

問一 傍線部(a)・(d)の漢字を平仮名にしなさい。(配点4点)

- (a) 当該 (d) 滑落

問二 傍線部(b)・(c)・(e)の片仮名を漢字にしなさい。(配点6点)

- (b) タンジョウ (c) ジュウ (e) カンプ

問三 空欄 A・B・C に入る最も適当な言葉を、次の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を記入しなさい。ただし、同じ番号は一度しか選べない。(配点6点)

- ① しかし ② だから ③ まるで ④ もちろん
⑤ つまり ⑥ たとえば ⑦ すると ⑧ また

問四 傍線部X「大まかな特徴」と同じような内容で使われている言葉を、本文中から漢字二字で抜き出しなさい。(配点3点)

問五

傍線部(1)「そんな体験のとき、前半は一つ目の経路が、後半は二つ目の経路が働いている」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。(配点5点)

- ① 視覚情報が素早く扁桃体へと送られて激しい感情が生じ、情報の細部は分析されないままその場の事態に対処した後、扁桃体で情報の細部が詳しく分析されるということ。
- ② 視覚情報が大腦を経ずにそのまま扁桃体へと送られて感情が喚起された後、他の感覚器官によって詳しい情報の分析がなされた結果が扁桃体送到られて感情が消失しているということ。
- ③ 視覚情報が大腦を経ずに扁桃体へと送られて感情をかき立てた後、大腦を通した記憶などと照合し詳しく分析した結果が扁桃体送到られて感情が制御されるということ。
- ④ 視覚情報が大腦送到られ、記憶などと照合されて出た分析結果が素早く扁桃体へと送られた後、扁桃体から発生した激しい感情が時間の経過とともに制御されるということ。
- ⑤ 視覚情報が大腦を経ずに扁桃体へと送られて感情が揺さぶられたことで、大腦を通して自らの記憶とを照合させた分析が行なわれずに感情の揺れが続いているということ。

問六

傍線部(2)「私は、後者の、中年の女性の証言が妙に心に残った」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点5点)

- ① 大脳でいくら情報の分析ができていても、扁桃体から生じる感情の激しさにはどうしても勝てないという人間の心の弱さが、詐欺情報を世間に広めていても被害が出てしまう理由であると思われるから。
- ② 振り込め詐欺やその手口をいくら知っていても、息子の身を案じる感情との葛藤に陥ってしまうという女性のことを気の毒に思い、肉親への深い愛情が詐欺の原因となっている事実が腹立たしかったから。
- ③ 大脳が既知の情報を確かめつつも、常に扁桃体から生じる激しい感情によって制御不能に陥るという人間の脳内構造の特性を認め、人間が生存のために環境に適応してきた進化の過程が非常に印象深かったから。
- ④ 大脳で既知の情報を確かめていても、時に扁桃体で生じる感情が情報の分析を上回って制御不能に陥るという人間特有の脳内構造が、広く詐欺情報を周知しても被害がやまない要因となっていると思われるから。
- ⑤ 大脳が詐欺であるという情報を認識しつつも、情報を分析すべき扁桃体が動揺することで制御不能に陥るという不安定な脳内構造が、世間に詐欺情報を報道しても被害者が出てしまう原因だと思われるから。

問七

傍線部(3)「『では先生、先日、鳥取県で発生した次のような事例はどのようなのでしょうか?』と聞いてこられた」とあるが、ここで「記者の人」がこのように質問したのはなぜか。本文を踏まえた説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点6点)

- ① 被害者の危機感をあおった事例についての説明を聞いて納得できず、新たに金銭を得る話でだましたという事例を問いながら、動物行動学による説明を否定したかったから。
- ② 被害者に恐れを抱かせてだます一般的な事例についての説明を聞いた後、鳥取県で発生した一つの事例を問い、自分たちの身近に起こった特殊な事件について別の説明を聞いたかったから。
- ③ 被害者に恐怖を与えてだます事例についての説明とは異なり、利益を期待させる手口の事例を問うことで、動物行動学による分析がその事例にもあてはまるかどうか確かめたかったから。
- ④ 被害者が不安や葛藤に陥る心理についての説明に疑問を抱き、異なる心理が証言された事例を新たに問いながら、動物行動学による説明によりいっそう疑念を寄せたから。
- ⑤ 被害者に脅しをかけてだます事例についての説明に納得したふりをしつつ、今度は利益になる話でだます事例を問うことで、新聞記者としての高い能力を誇示しようとしたから。

問八

傍線部(4)「被害者は鳥取県在住の60代の女性だった」とあるが、なぜこの「女性」は「被害者」となりかけたのか、動物行動学の理論を踏まえて六〇字以内で説明しなさい(句読点を含む)。

(配点10点)

問九

本文の内容に一致するものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点5点)

- ① 情報を脳内に取り込む二つの経路は人間の生存にとって不可欠であり、反応系としての一つ目の経路は現代社会に生きる人間にとっては特に重要である。
- ② 筆者は、テレビで見た二人の女性の証言から被害者心理を分析した結果を「二つの経路」理論にまとめ、その情報を広めるために記者からの質問に答えた。
- ③ 人間が生まれつき持つ脳の特性によって振り込め詐欺被害に遭う場合があり、その根底にあるのは子どもを産み育てる親としての本能的な感情である。
- ④ 人間は環境に適応して生存するために脳を複雑化する過程を経て今日に至ったが、そうした脳のあり方が振り込め詐欺被害を誘発しているとも言える。
- ⑤ 人間は、脳に取り込まれた情報によって感情が大きく揺さぶられてしまうと、どんな情報も自分の都合に合わせて改変し、自分の利益になるようふるまう。

二

問題文を読んで次の問一～問九に答えなさい。解答はすべて楷書で所定の解答用紙に記入しなさい。

誤解を恐れずに言えば、日本人は摩擦を恐れるあまり自分の主張を控え、集団の和を乱すことを極力回避する傾向の強い人たちだと感じます。これをあえて自省的に弱点として考える視点で見れば、日本は「優秀な愚か者」の国ということになるでしょう。

日本では集団の抱えている、いろいろな不都合や問題点に気づいて、空気を読まずに指摘してしまう人が、しばしば冷遇されます。そのことを理不尽であると抗議して声を上げたなら、なおさら集団から圧力がかかり、最後はハイジ^(a)ョされてしまいます。

一方、現代の日本に代表されるような安定した社会で優秀と評価される人は、これもまた自省的にあえて強めの言い方をすれば、「何も考えずにいられる人」かもしれません。集団のルールを守り、前例を踏襲し、集団の上位にいる人の教えや命令に忠実に従う、従順な人が重用される傾向は否めません。これは政府や企業に限らず、最高学府であるはずの大学でさえ例外ではありません。

日本国内において、東京大学は世界に通用する大学とされているでしょうし、実際に学位取得者によるノーベル賞受賞者数は、国内で最も多くなっています。

しかし、東大も京大も、他の国立大も、独創的な研究ができているかと問われたとき、自信を持って肯定できる人は限られているのではないかと危惧^(b)します。

また、個々の事情もあるのでしようが、最先端の研究をしたいという前向きな理由で海外に出る人もいる一方で、とにかく息⁽¹⁾の詰まる日本の現状から抜け出したい、逃げ出したい、という人も大勢います。私は中途半端な研究者だったので日本に戻ってきましたが、本当に優秀な研究者——特に女性で優秀な研究者は、そのまま戻らないということが相当あるようです。

大変残念なことです。日本国内においては、独創的で自由な研究は、大規模になるほどやりにくい土壤があるのかもしれませんが。反面、日本人研究者はイグノーベル賞（「人を笑わせ、そして考えさせる研究」に対して贈られる、ノーベル賞のパロディ）の常連です。これは、お金がかからず小規模でできる研究であれば、結果を出しやすいということを端的に示しているように思います。

チーム内での摩擦を **A** するために、イノベータータイプな発想力のある人がアイデアを大きな声で主張できず、才能を開花させることができないのだとしたら、これは大変残念なことで、^{c)} 国家のソ^{c)}ンシツだと多くの方が思うでしょう。ここには日本の大きな特徴が隠れていると思うのです。

日本の研究機関では、例えば研究室という小さな組織のなかの秩序を守ることの方が、独創的な研究を行って業績を上げることよりも重要視される傾向が、海外よりも高いのかもしれませんが。スタンドプレーはあまり歓迎されず、教授やリーダーの配下として尽くした研究者が **B** され、将来のポストに恵まれるのに対して、教授やリーダーよりも優れた研究を行えるような突出した研究者は業績を上げても人間関係で問題を抱えてしまうことが多く、どちらかと言えばいわゆる優秀な愚か者とも言うべき人材が残しやすいと言えます。

優れた研究者が、²⁾ その優秀さのリソースを「愚か者であり続けること」に投じた方が生き残りやすいという状況は、独創的な研究成果を上げるという観点からは非常にもつたいないことでしょう。

グローバルスタンダードから見れば、ひよつとしたら日本人は「優秀なのになぜ愚かなことをやめないのか」と言われてしまいかもしれません。ただ、だからといって「日本はダメだ」と安易に決めつけてしまうのは、それこそ正義中毒的な思考パターンと同じでしょう。日本ではこのやり方が、生き残るためには適応的だったのであり、このやり方に則^{のっと}って行動した方が、生き延び、子孫を残すのに有利だったのです。また、日本以外の土地でも状況によっては、日本のやり方が有利に働くケースだっ

て考えられるのです。

では、なぜ日本が現在のような、社会性が高く、社会や組織の維持のためなら自分の考えを呑み込むことがよしとされる文化になったのかについて、考えてみましょう。

日本人の社会性が高いのは日本が島国だから、という理由付けがしばしばなされます。簡単に納得しやすいものなのか、それ以上考えている人をあまり見たことがありません。では、なぜ島国だと社会性が高く、自分の意見を呑み込むようになるのか？

⁽³⁾ 同じ島国でも、イギリスはなぜそうではないのでしょうか？

日本独特の事情として、いくつか注目すべき点があります。

まず、気候面の特徴です。降雨量が多く台風も多く通過します。高温多湿だけでなく、風水害のリスクが高いのです。これは私が言うまでもなく、特に近年、誰もが強く感じていることでしょう。

もう一つの特徴は、プレート境界にあるために火山が多く、地震が多発する場所だということです。統計的に見ても、世界中で起こるマグニチュード6以上の大きな地震のうち、約2割は日本周辺で起きています〔平成26年版防災白書〕内閣府〕。これは、日本とイギリスとの大きな違いです。

同じ島国でも、自然災害のリスクが高く、恒常的に防災を考えなければならない国とそうではない国とは、生き残っていくことのできた人間や集団の性質が違ふことはわかりただけでしょう。日本は数千年、数万年前から変わらず自然災害が多いのですから、そうした環境に適応できる、つまり長期的な予測をして準備を怠らない人たちが生き残ったと考えるのが自然です。集団として見れば、構成人員の多くの割合が、そうした環境に最適化された人々である可能性が高いわけです。集団を優先する性質も含め、それが日本という環境における最適化の一つの結果であるのかもしれない。

そして、長年の最適化を経て得られた日本人の平均的な応答からすると、例えば私のような者は外れ値であり、いわば「みに

くいアヒルの子」として存在していると言えるかもしれません。つまり、今後何か大きな社会的あるいは環境的な変化があったときに備えるため、^{〔注1〕} バッファとしての多様性の一要素であるという意味を持つて存在しているのかもしれない。

ただ、平均的な値に近い人々から見ると、外れ値側にいる人々のことはなかなか理解できず、「あの人はなぜあんなに『バカ』なことをするのか……」などと **C**、といったことが頻繁に起こります。これは非常に残念なことだと思います。そして、圧倒的多数派である平均的な（マジョリティの）人々のなかでの「優秀なエリート（逆の視点からは優秀な愚か者）」が再生産され続けるのです。

2019年、セコム株式会社は「日本人の不安に関する意識調査」という、質問による調査の結果を発表しています。これは、^{〔注2〕} 20代以上の男女500人を対象にしたもので、「最近、何か不安を感じていることはありますか」との質問に対して、なんと7割以上の人が「感じている」と答えたのです。

これは、若いほどその割合が高く、20〜30代の女性では、その割合が9割にものぼりました。セコムという、人々の生活の安心を守る企業がこうした調査を行うというところに、まず面白さを感じますが、これは日本人のセキュリティ意識について、実に興味深いデータであると言えます。

これほど不安が強いのは何らかの理由があるのか、シンシナティ大学のロバート・リーヒが調査を行っています。アメリカでは、37%の人が毎日のように不安を感じているというデータがあり（これでも日本と比べるとかなり少ないですが）、その人たちを対象に2週間、何が心配なのか等について、具体的に記録してもらいました。すると、心配であったはずの事柄の85%について、現実的にはむしろ良いことが起き、残りの15%についても、その約8割は予想していたよりも良い結果が起きたということが明らかにされました。つまり、9割以上の心配事は、そんなに心配する必要はなかったはずのことであった、ということがわかったのです。

しかし、これは、アメリカという土地でのデータであり、しかも2週間という限定的な期間での調査です。もし、日本で数十年（子孫を残すのに影響が出るほどの時間）規模の長さの調査ができれば、こうした不安が **D** する場面を拾って、データに反映できるでしょう。少なくとも、現状を見れば日本には不安の高い人が多く生き残っているわけですから、すでに実験は終わっており、日本社会そのものがその社会実験の結果である⁽⁴⁾と見ることもできるのです。

結局のところ、日本で個人主義的な性質が強い集団よりも集団主義的要素が強い集団が生き延びやすかったのは、災害の多さという地理的要因が大いに影響しているのではないかと考えられます。東日本大震災や熊本地震を始め、ここ最近頻発する水害でも明らかになった通り、日本はどんなに防災面を發展させてきても、現在の状態の地球上のこの位置にある限り、自然災害からは逃れられません。

防災にコストをかけ、意識をいくら高めても、起きてしまうこと（起きてしまったこと）はどうしようもなく、誰かのせいにもできません。そして、災害からの復興は、助け合いながら、みんなで力を合わせてやる以外にありません。こうした状況下では、個人の意思よりも集団の目的を最優先する人材が重要視されることはごく自然です。逆に集団の協力行動をコバンだ^(e)り、集団の了解事項を裏切ったりする人は、みんなからの非難と攻撃の対象になります。また、たとえ災害により非常にづらい状況に陥ったとしても、集団で力を合わせて困難を克服することによって、自分の存在価値をかえって強く実感することができ、自らを癒^{いや}していった人たちも少なくなかったでしょう。それが良い、悪いという議論ではなく、私たちは抗^{あらが}い難い理由によって、集団主義的要素が強くならざるを得ない状況に置かれているのです。

（中野信子『人は、なぜ他人を許せないのか？』による）

(注1) バッファ——不測の事態に備えて余裕を持たせた、予備の人員・金銭・時間などのこと。
(注2) セコム株式会社——日本の企業。企業や家庭に警備システムを提供している。

問一 傍線部(a)・(c)・(e)の片仮名を漢字にしない。

(配点6点)

- (a) ハイジヨ (c) ソンシツ (e) コバ

問二 傍線部(b)・(d)の漢字を平仮名にしない。

(配点4点)

- (b) 危惧 (d) 経

問三 空欄 A に入る最も適当な言葉を、本文中から二字で抜き出さない。

(配点3点)

問四 空欄

B

C

D

号を記入しなさい。

に入る最も適当な言葉を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番

(配点6点)

B

- ⑤ 尊敬 ④ 制御 ③ 贈与 ② 左遷 ① 優遇

C

- ⑤ 眉をひそめる ④ 腹をさぐる ③ 胸を弾ませる ② 胸をいためる ① 息をひそめる

D

- ⑤ 持続 ④ 消滅 ③ 奏功 ② 劣化 ① 改善

問五

傍線部(1)「とにかく息の詰まる日本の現状」とあるが、具体的にどのような状態か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点5点)

- ① 大学においても従順な人が重用され集団の和を乱す人には圧力がかかるため、独創的な研究がしにくい状態。
- ② 独創的な研究をしてノーベル賞を獲得できる環境が東京大学にのみあり、他の大学での研究ができない状態。
- ③ イグノーベル賞を受賞する研究者が、ノーベル賞の受賞者よりも多いばかりかより高く評価されている状態。
- ④ 研究の世界での女性の地位がいまだに低く、女性研究者が中途半端で独創性に欠ける研究しかできない状態。
- ⑤ 研究以外の場面では、「何も考えずにいられる人」が優秀と評価され不都合や問題を指摘できない状態。

問六

傍線部(2)「その優秀さのリソースを『愚か者であり続けること』に投じた方が生き残りやすい」とあるが、どのようなことを述べているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点6点)

- ① 教授やリーダーより優れた研究を行えるのなら、アイデアを大声で主張し、能力をあらわにすることで秩序を壊す方が、組織が強固になる可能性が高まること。
- ② 組織に多くの研究者がいたとしても、そのなかでも能力の高い研究者をこそ大切に育てる方が、業績が上がって、組織をより長く存続させられること。
- ③ 歓迎されないとわかっていながらスタンдрプレーを重ねるような、一見愚かに見える行動こそが、めざましい成果が上がり、海外進出にもつながること。
- ④ 人間関係の問題を抱えた者であっても、その問題にじっくり取り組み解決することで、組織のなかで次第に重要視され、優秀さが評価されるようになること。
- ⑤ 高い能力を持っていても、研究そのものに高い能力を発揮するより、組織の秩序を守ることにその能力を発揮した方が、生き残るために有利になること。

問七

傍線部(3)「同じ島国でも、イギリスはなぜそうではないのでしょうか？」とあるが、筆者はこれをなぜだと考えているか、六〇字以内で説明しなさい(句読点を含む)。

(配点10点)

問八

傍線部(4)「日本社会そのものがその社会実験の結果である」とあるが、具体的にどのようなことを述べているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。(配点5点)

- ① 災害の不安から常に逃れられない日本に、不安が強い人が多いということから、災害に対する準備を怠らなかつた人が子孫を残すことに成功したことが証明されている、ということ。
- ② アメリカでのわずか2週間という限定的な調査の結果を見るまでもなく、日本では古くから不安に関する意識の調査が行われており、実際の社会での検証も可能である、ということ。
- ③ 日本では、災害によって街も社会も一瞬で破壊されてしまうことをくり返してきたため、災害に備えることから復興に至る過程が、何度もやりなおされる実験のようである、ということ。
- ④ 心配事を持ち不安を強く感じながら備えることが社会の発展に不可欠であることが、日本という国が長い年月維持され繁栄しつづけていることで明白に実証されている、ということ。
- ⑤ 生活の安心を守るはずの企業が不安に関する調査をするという奇妙な現象が日本で起きるのは、とりも直さず日本人が長年災害の不安に悩まされていた歴史によるものだ、ということ。

問九 本文の内容に一致するものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点5点)

- ① 優秀な女性の研究者は、日本の大学で「何も考えずにいられる人」を演じたからこそ、海外に進出することができる場合が多い。
- ② 日本人が自分の意見を呑み込むさまは、世界からは批判的な眼で見られてもしかたない日本の短所で、改めるべき価値である。
- ③ 日本人に集団主義的な要素が強い理由として、島国であるからだというだけでは説明しきれないと、多くの人が疑問に思っている。
- ④ 集団の和を乱すことを辞さない者は、日本での最適化から外れているが、環境の変化に備えた多様性の一要素である可能性がある。
- ⑤ 災害のもとでは、個人の意思を表明せずに集団の目的を優先するのが当然であり、意思を持たないで自分を無にすべきである。